



# さくらたより

令和3年度 学校だより  
NO. 19  
令和3年12月15日発行  
山形市立桜田小学校

## 学校評価アンケート 「対応・考え等」の速報

今年度からwebでの回答をお願いすることにしました（紙面での提出も併用）。92.1%の回答率でした。ご協力ありがとうございました。集計を元に、3学期すぐにできること、令和4年度以降の教育課程編成に役立てていくこと等、対応を検討中です。

文章記述によるご意見を多数お寄せいただきました（85.4%の方がご記名いただいています）。すぐにお答えできるものについて、このたよりでお答えします。

### 金管バンド〔生演奏をお聴かせすることができず申し訳ございません〕

- 学習発表会の一つとして、金管バンドの発表機会も設けてほしかった
  - 結果として「できなくはなかった」状況でした。が、計画段階で、昨年度のようなこと（金管バンド練習の制限や保護者の参観なし発表会）も想定しており、“学年発表のみ”と決めました。今後の活動としては、3年生への引き継ぎ（6年生が楽器ごとにていねいに教える、卒業式演奏に3年生も参加するための全体練習）があります。金管バンドは、ごく限られた時数での練習・準備をしているのが現状ですので、保護者向け発表の演奏準備は難しい状況です。どうかご了承ください。「映像ではなく生演奏を」という保護者の方のご希望に添えず、申し訳ございません。

### 各学級での指導に関わって

- 配布物をもってこないときがある
  - 十分に配慮します。以後、必要に応じてメールシステムでのPDF文書添付も行っていきます。
- できれば「月の予定」を早めに知りたい
  - 学校の行事等、大きなことに関しては1カ月前を目安にお知らせしています。学年や学級の細かな動きも、できるだけ早くお知らせできるように準備します。
- 宿題が多すぎるのではないかと ○宿題が少ない ○家で勉強しない
  - 学年や個人差に配慮した対応をしていきます。
- 荷物が重すぎる
  - 全国的に「教科書等学校に置いておく」動きが進んでおり、本校もそうしています。今後タブレットの持ち帰りの目も出てきますので（桜田小は5・6年生が3学期から持ち帰り予定）、何を持ち帰るのか一層吟味して対応します。

### 学級生活に関わって

- 落ち着きのない友だちがいることに、少々不安
- けんかが絶えない ○勉強に集中できていないのか心配
  - 「学校全体で子どもたちを支える」ことを徹底しています。複数の目で見守り、励まし、叱責し、改善に向けて取り組み中です。〔教室の整理整頓・学習規律の再確認と徹底・授業の緻密な準備・子どもが抱える不満の要因の聞き取りと改善に向けた働きかけ・乱暴な言葉などへの指導・必要な叱責と指導 など〕

## 登下校に関わって

### ○通学班がないことが不安

→ 桜田小は通学班登校の時代がありました。平成12年度から、児童の自律を高めるための個人登校になりました。交差点が多く、また、車の往来が非常に激しい地域です。子どもたちが自分の目で安全を確かめられるよう、学校でも指導をします。ご家庭でも再度、登下校等の安全について話題にしてください。

## 体力不足に関わって

### ○コロナの影響にたくないが、外遊びもぐんと減り、体力不足が心配。学校で長距離走等の企画をもっとできないか

→ 桜田小も“二極化”傾向があります。3学期は「なわとび」に目を向けた取り組みを計画しています。令和4年度以降、「もっとやりたくなる仕掛け」を創れるように検討していきます。

## その他（匿名による記述も含め）

- 「クラス替え」に関わって    ○運動会に関わって    ○この学校評価の質問内容に関わって  
○スポーツ少年団に関わって    ○教職員の対応に関わって  
→（今後、学校運営の参考にさせていただきます）

## **励ましの声もたくさんいただきました**

○コロナ感染の不安の中、大きな変更、実施を実現していただき感謝です。

○我が子もクラスメートと全く波風立わず過ごしているわけではありませんが、その波風こそが我が子にとって必要な経験と思っています。そう思えるのも、安心してお預けできる環境にあるからこそで、担任の先生の温かな見守りと導きに心から感謝しています。

○様々な家庭がある。意見を受けるばかりではなく、学校から「家庭でこうあってほしい」と、もっと発信してよいのではないかと。

→ ありがとうございます。励ましの中にあつたお言葉に触発され、学校からお伝えしたいことを、おずおずとではありますが記すことにします。「べきである！」という強いものではなく、「こうあるといいなあ」という柔らかな考えであることを含んでお読みいただけると幸いです。

### **こうあるといいなあ(1)「体罰はしない」**（暴力だけではなく、暴言や放置も） （1番に述べるこれは「べきである」「ねばならない」です）

「しつけ」という名の体罰は、親も禁止（児童虐待防止法）されています。体罰は、かつては“薬”として使われていたこともあります。今はその副作用が大きすぎることで明確になり「法」で禁止されるまでになりました。

暴力的な子の背景には、家庭での暴力があることを推察せよ — 以前から社会で広く知られ、教育実践にも生かされている見方です。ただ、昨今は“暴力的な内容を扱うゲーム”の存在があり、一概に家人による暴力の影響だけとは言えないようです。暴力的な子の背景に“ゲーム”があるとしたら、そのようなゲームをこそ、排除したいものです。